

スポーツ・健康まちづくりの検討に関する関係省庁会合

～Jリーグ：社会連携プロジェクトによる
共生社会の実現に向けた挑戦～

2019年 7月16日(火)

Jリーグ 理事 米田 恵美

本日の目的

- 総合戦略の策定や具体的取組みの施策を、
立案する種や芽を見つける一助となる

スポーツ×健康というお題ではあるが、心身の健康(Well-being)と捉えて、まずは自治体×スポーツ団体の事例を通じて、スポーツやクラブが持つ価値の多様さをどうまちづくりに生かすかを考えるきっかけとしたい。

せっかく各省庁からいらっしゃっているので、領域を越えて意見交換が出来たら嬉しい。

他にもアジェンダは沢山あるので、個別テーマがあれば、別途お声がけください。
障がい者や女性のスポーツ参加には、何が必要か？も一緒に考えたいと思っています。

本日の構成



1 自己紹介

2 Jリーグのこれまで

3 Jリーグの挑戦:チャレン!

4 ここから注力したい2つの取組み

5 これからの日本で手を打つべき領域と課題

6 皆さんと共有したい問い

① 自己紹介

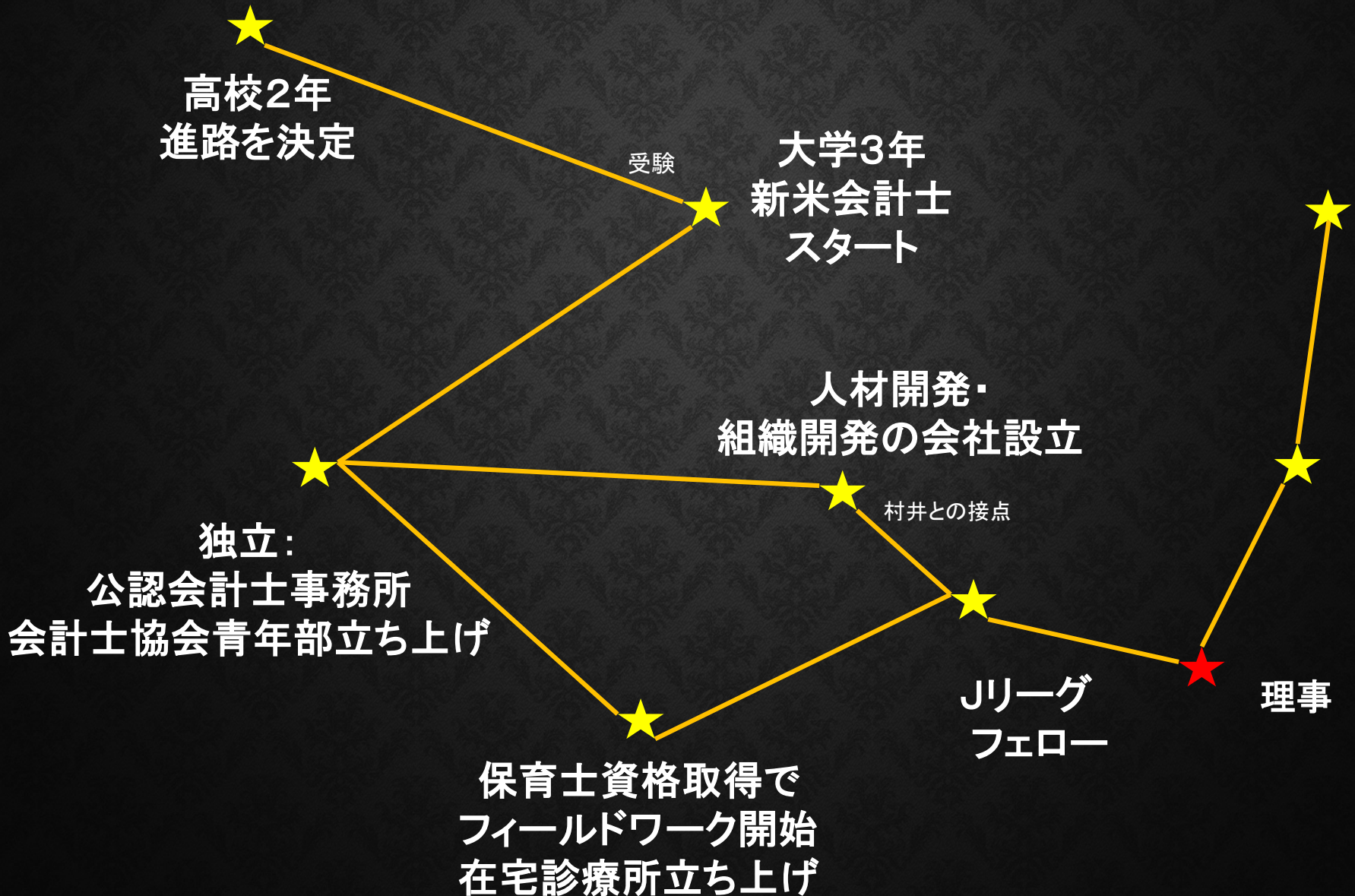
米田 恵美

Jリーグ 業務執行理事

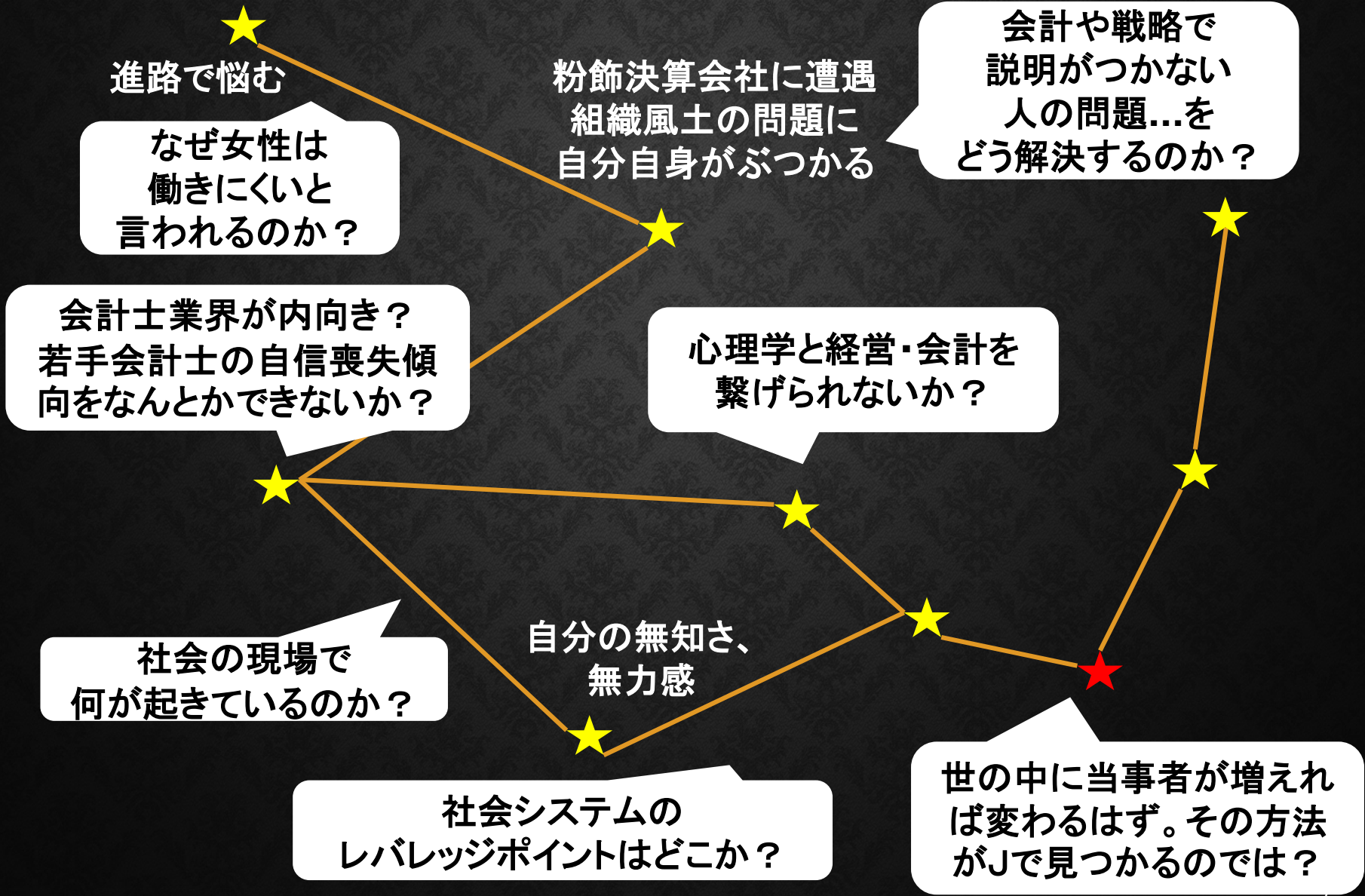
社会連携 担当

経営企画 ・ 組織開発^(*) 担当

表向きのキャリア



根っこのキャリア=ぶつかる壁と問い



問いを追いかけ七転八倒した結果…

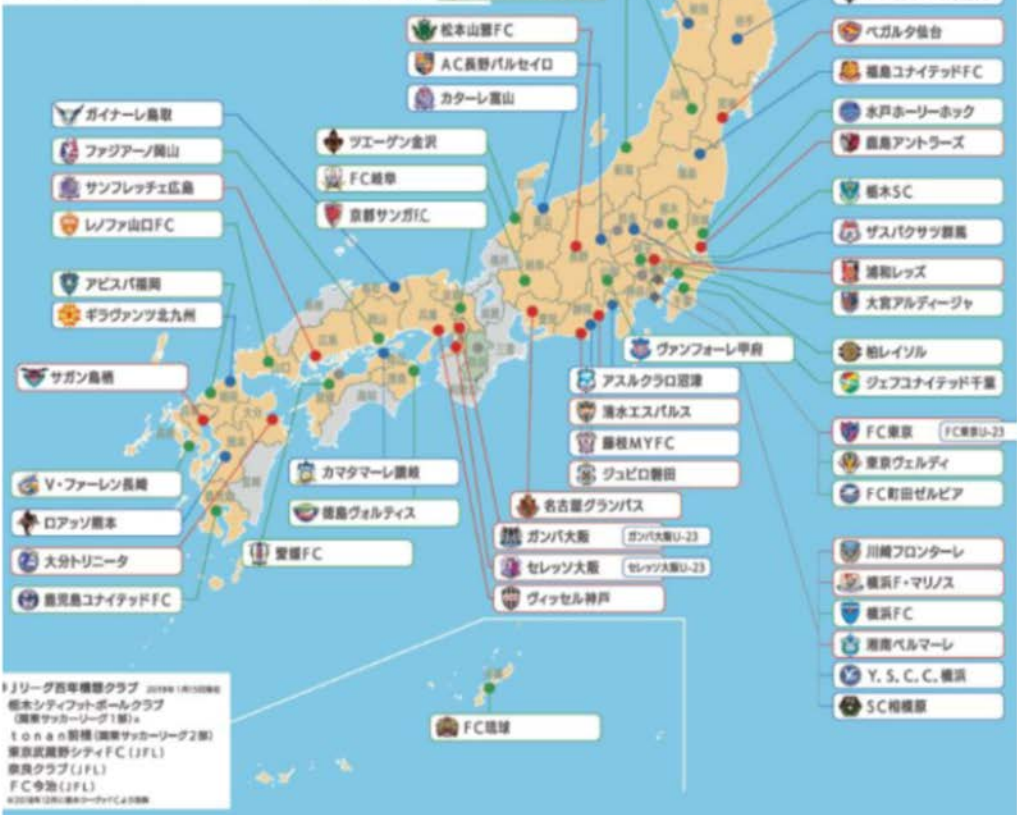
- 会計と人材育成
- 子供からビジネスパーソン、高齢者まで
- パブリック＊ビジネス＊ソーシャル
3つのセクターの目線がスポーツで繋がる
- 仕組みやルールづくり と 現場のリアル
- コミュニティデザイン、ファシリテーション
- 個の変革、組織変革、業界変革、そして地域へ

2 Jリーグのこれまで

2019 Jリーグ クラブ編成

- J1 (18クラブ)
 - 北海道コンサドーレ札幌
 - ペガルス仙台
 - 鹿島アントラーズ
 - 浦和レッズ
 - FC東京
 - 川崎フロンターレ
 - 横浜F・マリノス
 - 湘南ベルマーレ
 - 松本山雅FC
 - 清水エスパルス
 - ジュビロ磐田
 - 名古屋グランパス
 - ガンバ大阪
 - セレッソ大阪
 - ヴィッセル神戸
 - サンフレッチェ広島
 - サガン鳥栖
 - 大分トリニータ
- J2 (22クラブ)
 - モンテディオ山形
 - 水戸ホーリーホック
 - 栃木SC
 - 大宮アルディージャ
 - ジェフユナイテッド千葉
 - 柏レイゾル
 - 東京ヴェルディ
 - FC町田ゼルビア
 - 横浜FC
 - ヴァンフォーレ甲府
 - アルビレックス新潟
 - ツエーゲン金沢
 - FC岐阜
 - 京都サンガFC
 - ファジアーノ岡山
 - レノファ山口FC
 - 徳島ヴォルティス
 - 愛媛FC
 - アビスパ福岡
 - V・ファーレン長崎
 - 鹿児島ユナイテッドFC
 - FC琉球
- J3 (15クラブ+U-23チーム)
 - ワンタラーレ八戸
 - いわてグルージャ盛岡
 - ブラウブリッツ秋田
 - 福島ユナイテッドFC
 - ザスパクサツ群馬
 - Y. S. C. C. 横浜
 - SC相模原
 - AC長野パルセイロ
 - カターレ富山
 - 藤枝MYFC
 - アスルクラロ沼津
 - ポイネール高知
 - カマタマーレ讃岐
 - ギラヴァンツ北九州
 - ロアッソ熊本
 - FC東京U-23
 - 東京ヴェルディU-23
 - ガンバ大阪U-23
 - セレッソ大阪U-23

[全55クラブ+3チーム]



Jリーグ百年構想クラブ 2019年10月15日現在
 栃木シティフットボールクラブ (関東サッカーリーグ1部)
 トナン群馬 (関東サッカーリーグ2部)
 東京武蔵野シティFC (JFL)
 奈良クラブ (JFL)
 FC今治 (JFL)
 FC今治 (JFL)
 FC今治 (JFL)

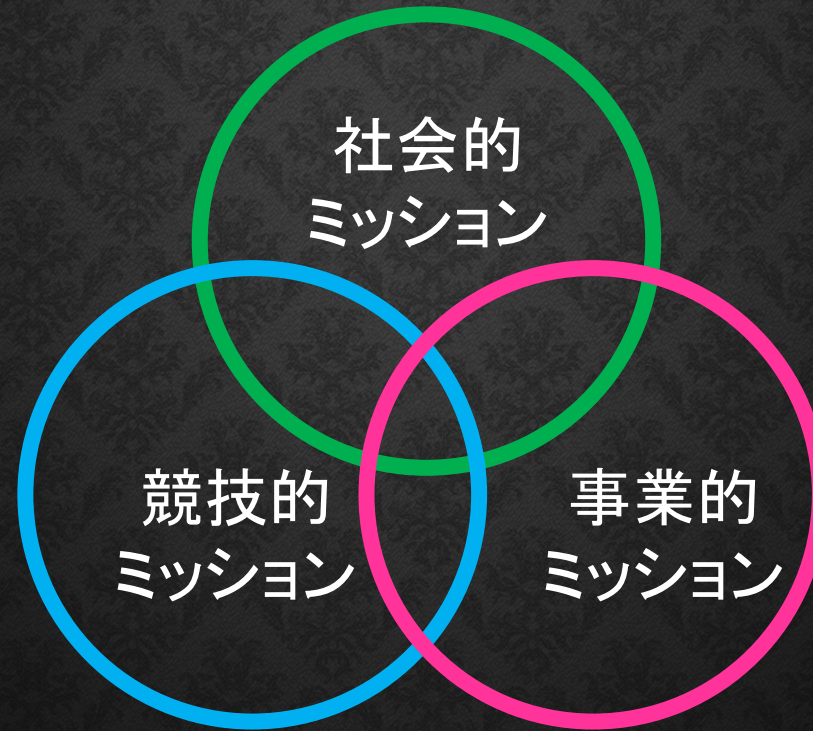
Jリーグは 55クラブ になりました (2019.6時点)

【Jクラブのない県】

- ・福井
- ・三重
- ・滋賀
- ・奈良
- ・和歌山
- ・島根
- ・高知
- ・宮崎

Jリーグはサッカー団体だよね？

トリプルミッションの組織



Jリーグ理念

- ・日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進
- ・豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与
- ・国際社会における交流及び親善への貢献

百年構想

～スポーツで、もっと幸せな国へ～

ホームタウン活動

Jリーグ規約第21条[Jクラブのホームタウン(本拠地)]第2項
「Jクラブはそれぞれのホームタウンにおいて、

地域社会と一体となったクラブづくり

(社会貢献活動を含む)を行い、

サッカーをはじめとするスポーツの普及および振興に努めなければならない。」

このホームタウン活動…どのぐらい真剣にやってるか？

約20,000回 ÷ 54クラブ※ ≒ 370回

地域と共にあるJリーグだからこそ

共に支え合う風景をつくっていきたい

③ Jリーグの挑戦:シャレン!



シャレン!

Jリーグ社会連携

- ☑ シャレンとは何か？
- ☑ なぜこのようなことを考えたのか？
- ☑ どんなテーマに取り組んでいるのか？

Jリーグって
ホームタウン活動を
すごいやってるんだって。

いいことやってるんだねー。

で終わりがたくない。

活動の質を深め、範囲を広げるには
より多くの人と協力して届けるしかない！

シャレン!

Jリーグ社会連携

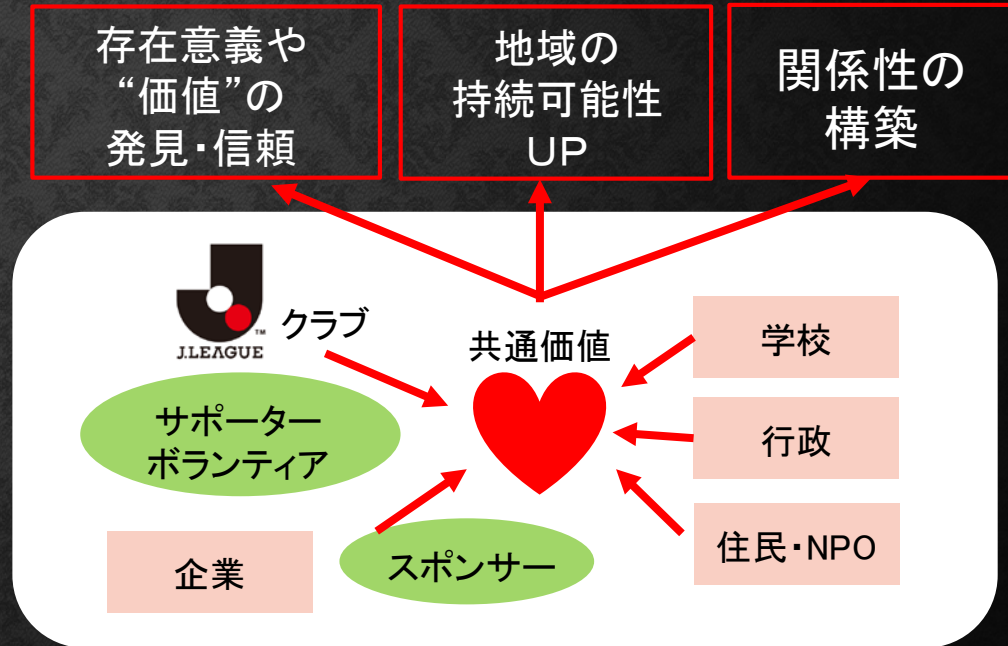
主語を変える！

主語：クラブ



ホームタウン活動
サッカーのメディア的
価値を中心に活用

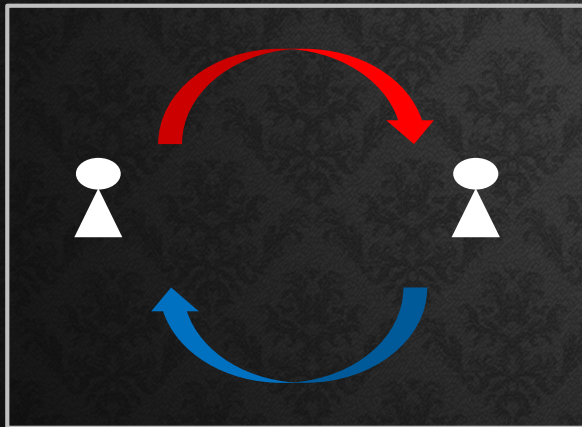
主語：地域の人



社会連携プロジェクト
サッカーの多様な価値を活用

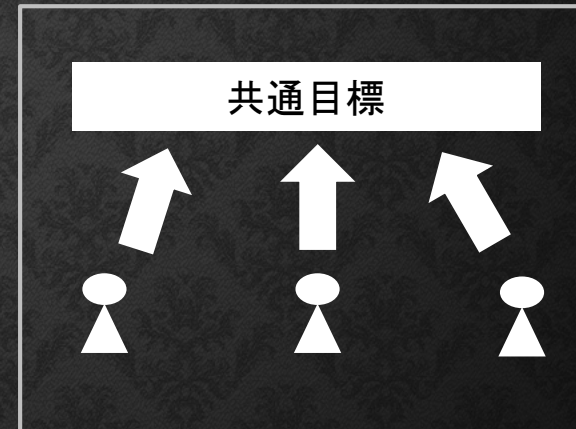
価値の交換モデル から 共創モデルへ

交換



交換するものに
価値がある

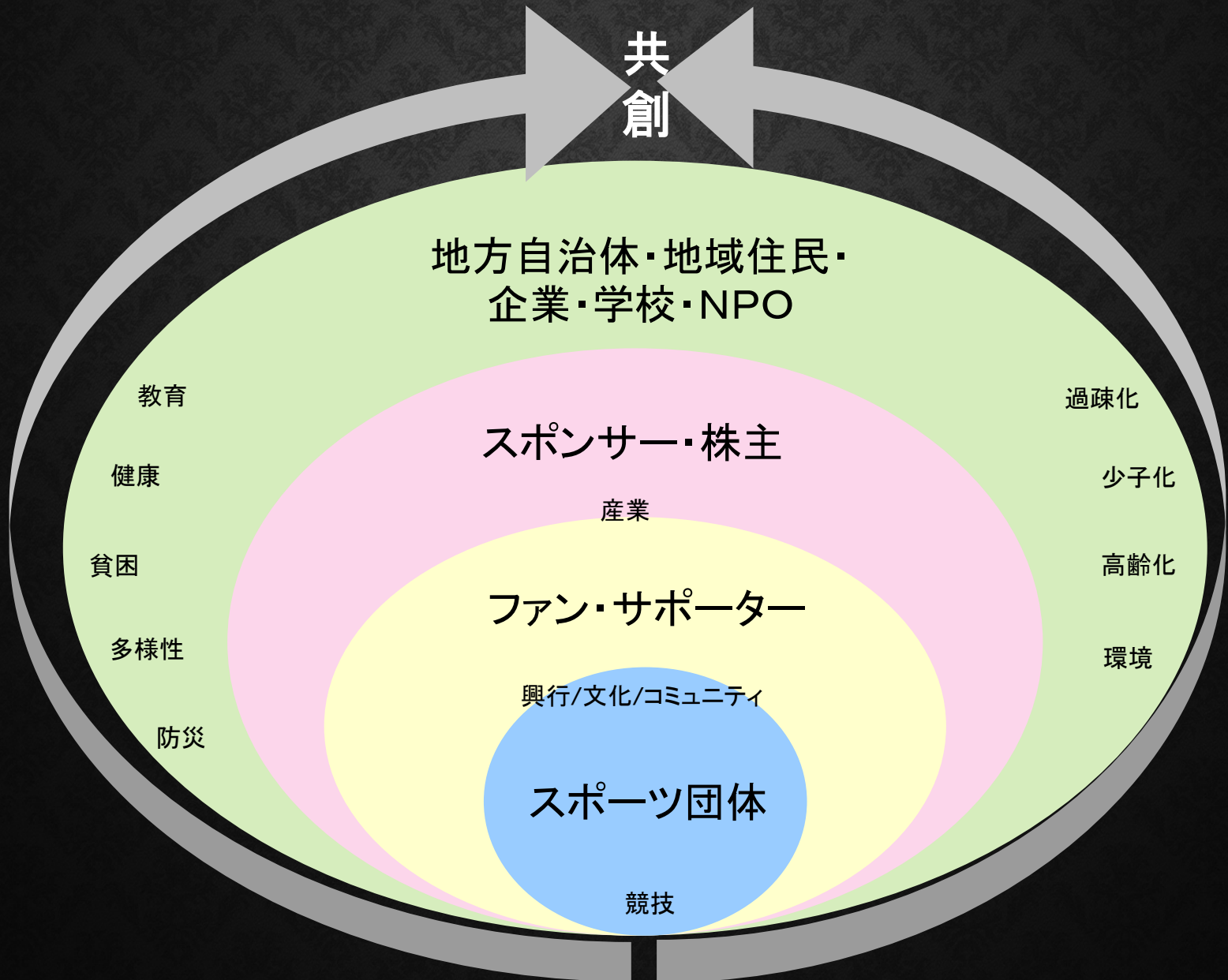
共創



プロセスからの学びと
成果に価値がある

※等価交換を求めがち

スポーツを活用して、日本の、地域の豊かな生態系をつくる



Jリーグでいうシャレンの定義



共通のテーマ



3者以上の協働

Jリーグでいうシャレンの定義

共通のテーマ

ダイバーシティを体感する

教育をもっと面白く！

健康でいきいきと！

多世代交流

子供の貧困

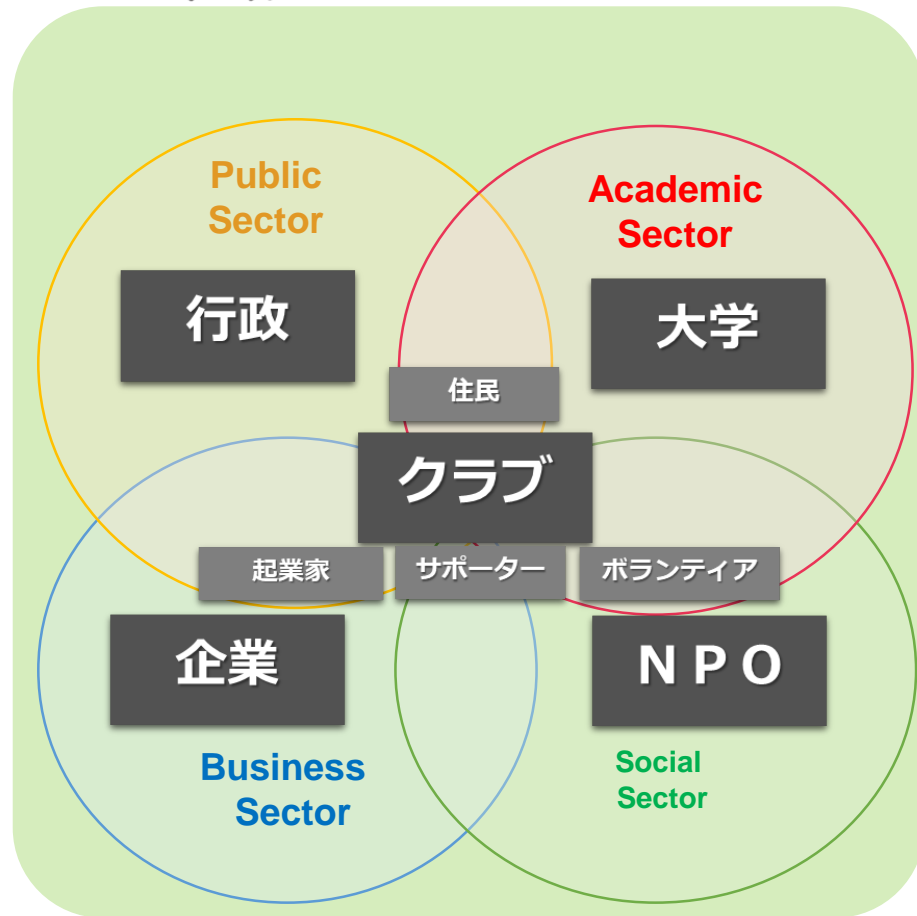
農業

防災

環境



3者以上の協働



～事例はプレイブックをご参照～

Jリーグ、なにやら
社会連携始めたらしいよ！

へえ、意識高い系のやつね。
私には関係ないや・・・

に、したくない。

(米田の仮説)

地方創生の肝は、
自分たちの地域を自分たちで良くしたいと
行動する「当事者」がどれだけいるかではないか？

誰もが、誰かを応援するために
一歩踏み出すことができる装置を
どうしたら作れるだろう？

リーグを
つかおう!

Jリーグをつかおう！プロジェクトとは？



誰もが関われる器を作り、
世の中に当事者を増やすことを目指した

将来的には地域のスポーツ団体も乗れるようにしたい

Jをつかおう！イベント 2019.5.15



Jリーグの“何”をつかう？ (例：試合日/場をつかう)

スタジアムを復興支援、
地域間交流、発表の舞台に

地域のダイバーシティのために



東日本大震災復興
(愛媛FC)



就労体験
(川崎フロンターレ)

+ 企業の人材育成のために

Jリーグの“何”をつかう？（例：ノウハウ）

ノウハウを住民の健康のために



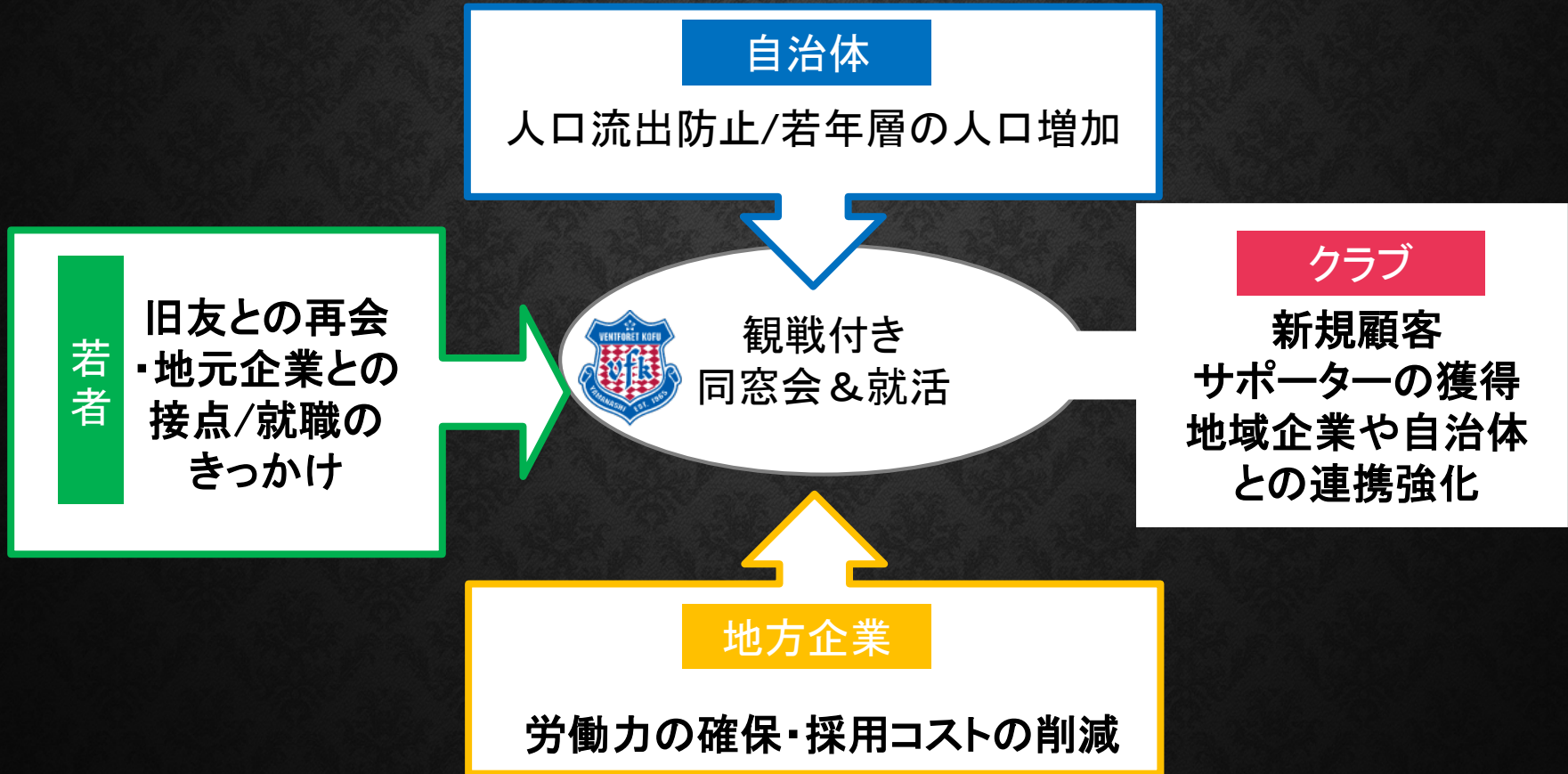
ソーシャル・インパクト・ボンド
Jクラブ1号案件
徳島県 美馬市 健康増進事業
(徳島ヴォルティス)



健康・医療事業
(鹿島アントラーズ)

Jリーグの“何”をつかう？（例：つなぐ力）

学生発案：スタキャリ同窓会(ヴァンフォーレ甲府 × 自治体 × 企業)



クラブの『つなぐ力』をUターン・企業マッチングなど
地方創生に活用したケース

Jリーグをつかおうプレイブック (取組事例)



- ・健康
- ・次世代教育
- ・生きがい/働きがい
- ・移住
- ・多世代交流
- ・観光/産業発信(国内・海外)
- ・ダイバーシティ&インクルージョン
- ・まちづくり
- ・防災
- ・復興支援
- ・環境 などの社会的テーマに取り組む

東京オリパラ×Jリーグ(クラブ)に
橋を架けるプロジェクトも進行中

川崎市 × JTB、富士通、ANA × 川崎フロンターレ

発達障害児の観戦体験やスポーツ体験、旅行のサポート

発達障害児
のための

えがお共創プロジェクト
フロンターレ応援ツアーIN 等々力
スポーツがもっと好きになるサッカー&ユニバーサルツーリズム



©KAWASAKI FRONTIER

1日目は等々力で応援、2日目はサッカー体験教室

1日目:2019年7月27日(土) @川崎市等々力陸上競技場
川崎フロンターレVS.大分トリニータ戦を観戦

2日目:2019年7月28日(日) @川崎フロンターレ麻生グラウンド
サッカー体験教室

最終ゴール：

共生社会の実現

プロジェクトの対象：

移動や体験に困難を伴う人々


⇒今回は発達障害児の観戦体験やスポーツ体験、旅行のサポート

中間ゴール：

様々な困難さを解決するため関係者で行動した上でそれを持続可能にするスキームを模索する

※この時だけの取組みにしない。一過性で終わらせないようにそれぞれのセクターが何をすべきか考えていく必要がある。

ここまでのおさらい



スポーツの価値＝夢、成長、希望、ワクワク感だが、
試合やサッカーに加えて、発信/繋ぐ/ノウハウなど
クラブのもつ多様な価値もある。これを社会に役立てたい。

自分たちだけじゃなくて、多くの人と連携しよう＝シャレン！

一緒にやろうよ！という呼びかけ＝「Jリーグをつかおう！」

共生社会づくりをしていく、というJリーグ経営の覚悟

④ ここから注力したい2つの取組み

～ ラボ構想 と 地域人材育成プロジェクト ～

※注:いずれも構想段階であり、正式な組織決定をされたものではありません。

この取組みも 2つの問いが 起点になっています

問1:なぜ東京から地方への流れは起きないのか？

問1:なぜ東京から地方への流れは起きないのか？



仮説:地縁と職のイメージがない。
一足飛びに地方に行くのはリスク。



仮説:ステップを踏めるような置き石や移行のための装置が必要？
ヨソモノ/地元の融合やHUBとなる組織/人/モノが必要？
地域に動くことが楽しくなるようなものにまだなっていない？



HUB機能として、Jリーグ/クラブは果たせることがあるのでは？
⇒丸の内ラボ構想＋クラブ版ラボ構想(&マッチング拠点)

Jリーグは・・・関係人口を生み出すのが得意・・・



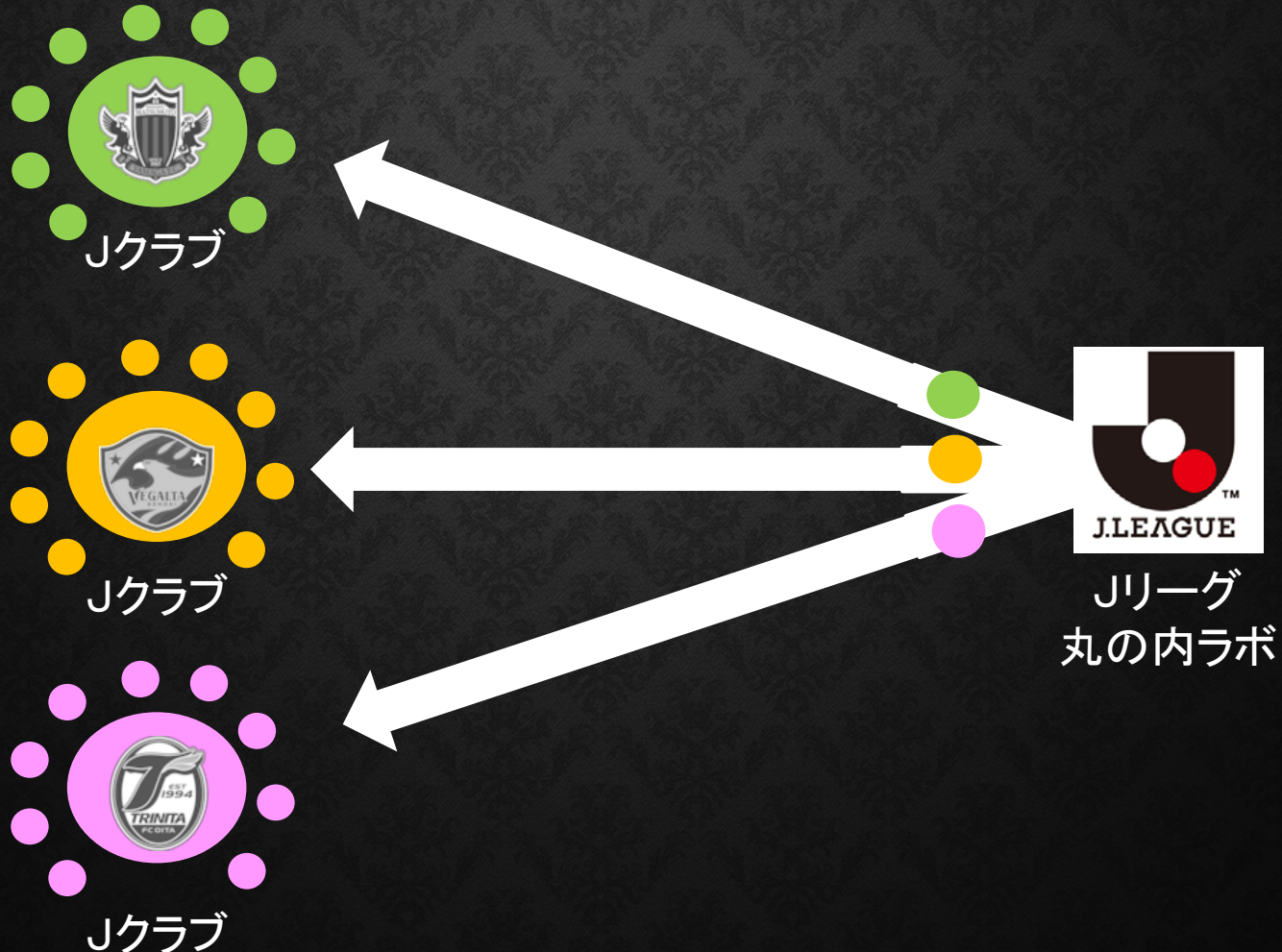
Jクラブは、リアルコミュニティのHUB



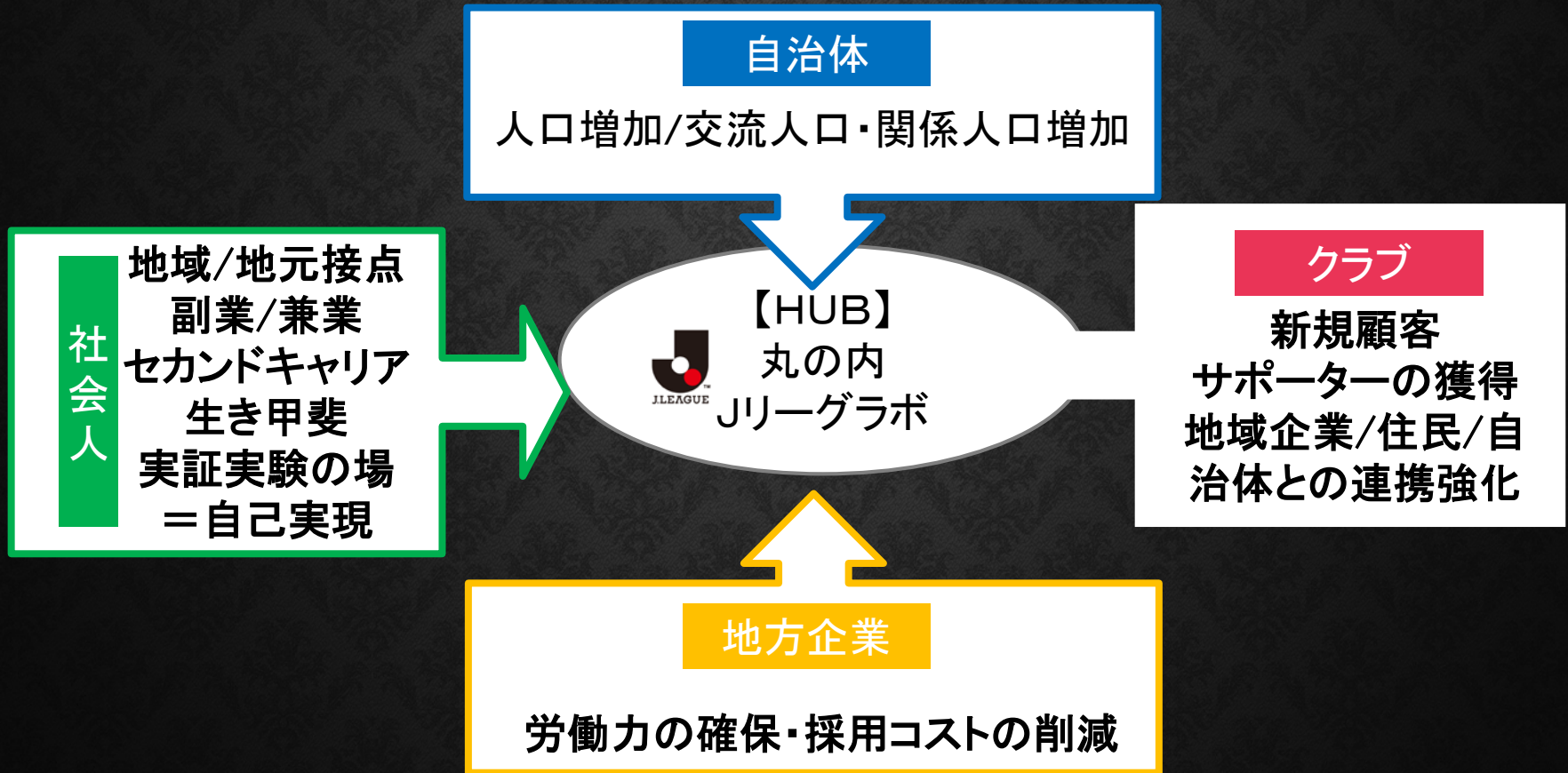
パートナー企業が数百社にもものぼる！

クラブはコミュニティのHUB機能だとすると、
クラブを通じて地域・地元につなぐ

リーグとクラブの構造を活用し、そのHUBをつくらうか？



地方創生：関係人口・交流人口増 に向けた事例：丸の内ラボ構想（進行中）



※東大や丸の内の企業と実証実験を進行中

地域に関わる様々な形をつくりたい

生産活動

支援活動

消費活動

定職

副業・兼業

プロボノ・フィールドワーク

顧客

移住
転職

クラブや
周辺企業での
プロボノ
・副業

シヤレン!
に従事

ボラン
ティア

仲間と
観戦

Jクラブ(HUB機能)



Jリーグ
丸の内ラボ

※キーは「グラデーション」
「あいだ」「プロセス」「触媒」

丸の内ラボ構想＋クラブ版ラボ構想（＋マッチング拠点）

内容：リーグ&クラブの構造を活用したラボを運営する。

テーマ 東京⇒地方、人材育成、地方創生、産業振興、社会課題解決

内容

- まずは丸の内にスポーツラボを設置し、東京-地方の交流を促進し、人材育成、イノベーションを同時に起こしていく。
- すでに丸の内の企業、東大とパイロットプログラム始動中。（プラチナ社会大学、丸の内朝大学等ノウハウ実績がある関係者や、地方経営人材の育成とマッチングの使命を負っている日本人材機構とも話をしている。地銀からもコラボしたい旨の申し出あり。）
- 信州大学のプログラムを経て、松本山雅に転職した事例あり
- 東大をはじめとした産学連携やベンチャービジネスもスコープ内
- 丸の内のラボがワークした後は、そのノウハウをクラブに展開し、クラブ版のラボをつくり、地域のHUBを目指す

丸の内ラボ構想＋クラブ版ラボ構想（＋マッチング拠点）

意義

【“ひと”目線】 【“公的”目線】

- 東京（Jリーグ）×地方（Jクラブ）の人材交流、移住に加えて人材育成（人生100年時代の生き方に寄与するツールの提供）を目指す
- 観戦、シャレン（プロボノ）・ボランティア、副業・二拠点、移住・転職の選択肢あり
- スポーツという人気の高いコンテンツに関われるニーズは高く、スキルを活かしたい、地方に関わりたい、社会に貢献したい人材の供給拠点となるポテンシャルがある
- シャレン！のテーマからラボをスタートするため、プロジェクトが稼働するほどに社会的価値のあるものを世の中に生み出すことが可能になる

【“ビジネス”目線】

- スポーツは、発信力があり、競争のモチベーションを抱えている。
- 顧客が一斉に集うという意味で、テストマーケティングとして優れている。従って、スポーツ団体がオープンイノベーション拠点を作れば、新しい技術を取り込みながらスポーツ、周辺産業、社会を進化させる拠点となれる。

発展形として、ホーム&アウェーの構造を活用

- 観戦時に、アウェーサポーターをもてなす
- 交流が生まれるHUBがあれば、人の移動が生まれる
- そこから新しい価値観が地域に入り込み、地域での新しい価値創造につなげる

丸の内ラボ と クラブ版ラボ構想は

関係人口創出・拡大 および 地域人材支援戦略であり

地域毎の産業創出の新しい拠点をつくる戦略でもある

ですが、正直、カベもあります・・・

ラボ構想を進めるうえでの課題を共有させてください！

- 短期で直接的にスポーツ団体の収益にはならないため、スポーツ団体はオープンイノベーション拠点として適しているにも関わらず、企業よりもオープンイノベーションに踏み出しにくい側面がある。

上記のカベをクリアするためには？

- ビジネスとして成立するか（例：人材紹介業＋人材研修-個人・企業のパッケージ）の実験・パイロットプログラム、モデルの提示が必要かもしれない。
- ラボの開設にかかる資金の助成（最低でも3年～5年程度イニシャルのサポート）があると、全国にスポーツと組み合わせた地域のためのラボ（拠点）が展開できる可能性が広がるかもしれない。

問2: 地方で育った人材は、なぜ地域から出ていってしまうのか？

問2: 地方の人材が、なぜ地域から出ていってしまうのか？



愛着がない？ 仕事がない？ 若者は刺激がある場所を求めている？
とどまるに値する独特の文化を感じ取れていない？

閉じられたコミュニティでは外から見れば魅力のあるものでも
当たり前化してしまい、結果として地域への愛着がわからない？

学校教育、学校と家庭の行き来だけでは、付き合いが限定的？
学生時代に地元の職業のイメージが湧かないと、
別の場所での仕事をするものだと思って出ていってしまう？ など



Jリーグ・Jクラブがこの課題に対してやれることはないか？



高校や大学と連携し、フィールドワークにJクラブを活用してはどうか？

Jクラブと高校や大学との連携(フィールドワークのコンテンツとして)

テーマ	アクティブラーニング+フィールドワークにJクラブのコンテンツを活用 地域との協働による高等学校教育改革にも寄与する
内容	地域人教育
意義	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>スポーツ観戦⇔街の愛着が増す</u>という相関関係あり ● <u>スポーツに関わるということ⇔街に関わるということ+仕事と地域を繋ぐ</u> ためにクラブを通じたフィールドワークを上手に活用する ● 教育の題材としても<u>スポーツは若者にとって魅力的で身近</u>であり、有効 ● 防災を学ぶ、算数やプログラミングを学ぶなど<u>サッカーやクラブの周辺には教育コンテンツが多数</u>ある。<u>自ら問いを立てる力</u>を養える。例えばスタジアムまでの観戦バリアフリーマップをつくらうといったSDGs教育と組み合わせたコンテンツも多く出来るかもしれない。 ● クラブは本来的には地域の文化の象徴であり、クラブとともに、“<u>ふるさと</u>”を<u>理解</u>していくことにもつながる

地域人材育成PJを進めるうえでの課題も共有させてください！

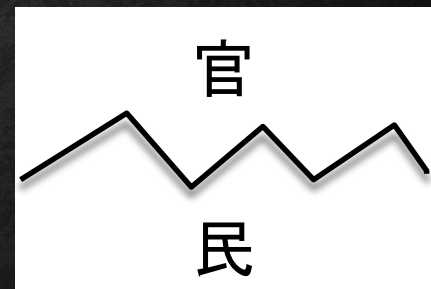
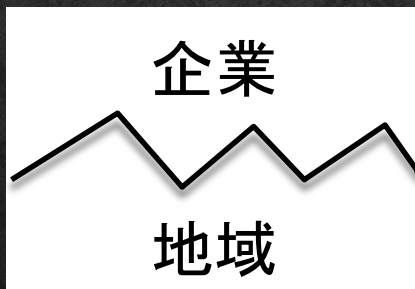
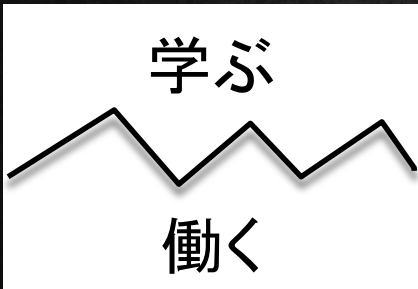
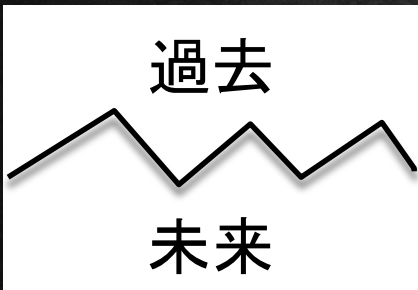
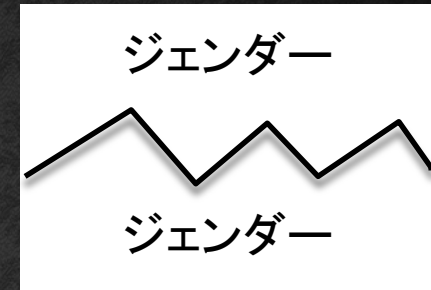
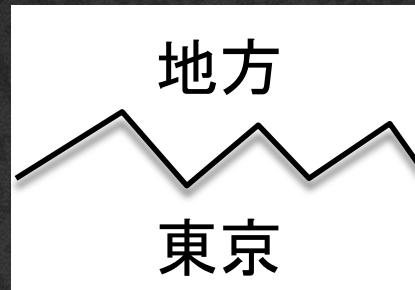
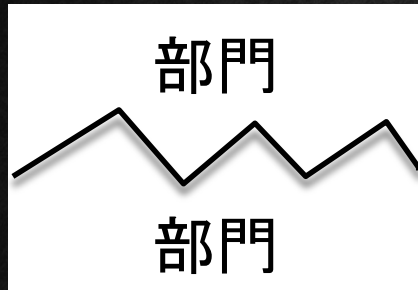
- 稼働にかかる人件費と活動費が必要
- 申請や学校との連絡調整などの手続きが煩雑だとクラブは動きにくい
- 持続可能性を考えたときに、学校側にフィールドワーク資金が必要で、指導要領への組み込みの動きがない中でリソースを割くのはきつい
(予算あるときだけやる単発/一過性の取組みをクラブは嫌う)

私が考えてきた

5

これからの日本で手を打つべき領域と課題

見立て① あらゆる分断が起きている



⇒非効率になったり、間の領域が取り残される

見立て② 地域経済を担う挑戦人材が生まれにくい構造

仮説:

「統合」「挑戦」「ヒトゴトからワガゴトへ」の3つが肝ではないか？



解決策:

- ◆ コミュニティの器をつくり、適切な人材を配置する
- ◆ 分断を統合し、関わる人・当事者を増やす
- ◆ 適切な人材を育む(ヨソモノ・若者・地元民)

※部署の縦割りや、東京/地方の分断を統合するモノが重要

※持続可能な地域づくりのメソッドを理解したファシリ人材が必要

※この指とまれ！が出来ることが重要

ex.シャレン: スポーツの関わりやすさ+SDGs等の社会的テーマ

【オススメの書籍:『持続可能な地域のつくり方』寛裕介】



要約:

全てのモノゴトは繋がっているという前提にたち、地域の現場で何が起きているか？を地図にしてみると・・・コミュニティの弱体化と、ワカモノの流出・地場産業の衰退がポイントではないか？と投げかけている。

持続可能な地域とは以下の4つを備えた、人と経済の豊かな生態系が息づいた地域

- 1:道を照らしみんなを導く未来ビジョン
- 2:つながり協働し高めあう地域コミュニティ
- 3:一人ひとりの生きがいを創るチャレンジ
- 4:未来を切り拓く力を育む次世代教育

なぜスポーツやJリーグが有効に機能すると考えているのか？ Jリーグがもつ強みを洗い出してみた。



発信力 エンタメ力	エンターテイメント、余暇の要素、熱狂やワクワク感が含まれているため、関心が高い ex. 記憶に残るニュースも必ずスポーツは上位にくる(惹き付ける力)
繋ぐ力 関係資本	共通の話題となるし、同じものを共有していくため、コミュニティ形成機能が高い ex. #もしJリーグがなかったらエピソードを募集⇒出逢いが一番上に！
行動力 影響力	スポーツを楽しむファンではなく、共にクラブを創る/応援する“サポーター”の存在と、その数の多さ。クラブがビジョンを掲げれば、それを共有し、共に行動できる可能性高。
公共財	官と民の間の機能を果たせる
活動実績	ホームタウン活動を実践しているため地域コミュニティのHUB機能を果たしている
企業群の 関係資本	スポンサー何百社がつくため、経済コミュニティのリアルな接点も持っている
人的資源 知的資本	ビジネスはもちろん、スポーツには人が生きるうえでの重要な要素が沢山ある。 サッカーに関わる人達に多種多様なノウハウがある(ex. 心身の健康)
ハレ舞台	2週間に1度の人が集まる場は、様々な実証実験の場としても最適
熱量	スポーツが好きから派生した熱量/モチベーションは技術力向上などの原動力となる
その他	リーグとクラブの構造

参考) 持続可能な地域づくりの要素にスポーツをはめてみると？



持続可能な地域とは4つを備えた人と経済の豊かな生態系が息づいた地域

1: 道を照らし みんなを導く未来ビジョン	⇒ 熱狂し、多様な人が関わりたくなる スポーツの要素を活用 ⇒ クラブ
2: つながり協働し 高めあう地域コミュニティ	⇒ コミュニティ形成、交流人口・関係人口増に スポーツを活用 ⇒ ラボ
3: 一人ひとりの 生きがいを作るチャレンジ	⇒ 多様な人が関われる装置として スポーツを活用 ⇒ チャレン！
4: 未来を切り拓く力を育 む次世代教育	⇒ 地域とワカモノを繋ぐのにも スポーツを活用 ⇒ 地域人材育成PJ

ここまでのおさらい

- Jリーグ・Jクラブ(≡スポーツ団体)という器には多様な切り口、価値がある。
- コミュニティを形成し、かつ中間支援団体的な重要な役割を担える。
- 社会を良くする・日本の課題に貢献できる1つのツールである。
- 認知・注目されやすく、楽しく関われるのがスポーツの良さ。

この上手な活用は、これからの日本社会の肝ではないか。

注:スポーツ以外の切り口だったり、J以外のスポーツを否定するものではない。

進めるうえでの課題感

- 全体ビジョンを関係者で共有しきれていない
- スポーツを活用する側の理解が進んでいない＝連携のスピードと質に影響
- スポーツ団体側のインセンティブが見えにくく、経営の優先順位上、投資しづらい。顧客のエンゲージメントを獲得できる、資金や人手を確保できるなどがないとスケールしにくい
- ファシリや活動モデルをつくるのに時間もスキルも必要で、その分の負担が重荷。
- 特に実験的取組みとなるチャレンジャーは善意で、その分持ち出しとなりがち。
- これらの取組みを進められるトライセクター人材がまだ少ない。
- パブリックセクターとの関係でいえば、行政・自治体との連携上、領域の分断が課題（後述します）

6 皆さんと共有したい問い

Q1: 全国に地域のためのスポーツと掛け算した
オープンイノベーションラボ設置を推進するのはどうか？

Q2: スポーツを活用した取組み。どの分野に注力すべきか？

Q3: コミュニティ形成や実験的取組みの
人的・資金的サポートが可能な領域はあるか？

Q4: スポーツを活用した取組みの効果測定と
ロジックモデル策定を今より多く出来ないか？

Q5: どうしたら、各省庁の領域分断を乗り越えられるか？
～領域間に落ちているものを洗い出したい！～

Q1: 全国に地域のためのスポーツと掛け算した オープンイノベーションラボ設置を推進するのはどうか？

“みる”“する”“支える”だけではない、
スポーツを活用する街のコミュニティと社会課題解決拠点、オープンイノベーション拠点、
人材育成拠点としてのスポーツHUBを日本中に作ってはどうかと考えているが、
どうしたら皆さんと連携してこのラボ構想を進められるか？お知恵をお借りしたい。

例えば・・・

【組織体と運営】 地域財団をつくり、例えばクラブに一部運営を任せる方法も一つか？

【財源】 財源はどう手当てするのが良いのか？ふるさと納税×企業、
ふるさと納税型ガバメントクラウドファンディングなどを活用する方法も？

【人的資本】 領域横断のラボや組織を適切なトライセクター人材で回すことが
重要なので、公募＋教育プログラムをセットにするか？
自治体との連携部分は、職員の出向などが適切か？

Q2:スポーツを活用した取組み。どの分野に注力すべきか？

(省庁横断の分野？)

シャレン！を推進するうえで、優先して取り組むべきテーマがあれば教えてほしい。また、まち・ひと・しごと創生本部マターのもの、個別省庁のテーマのものとの区別が付けられたらうれしい。

(ex)

- ・農業とのコラボ
- ・学校とのコラボ
- ・健康/医療とのコラボ
- ・インクルージョンの取組み（障がい者、貧困、国籍などの困難さの解消含む）
- ・女子サッカーの取組み
- ・海外進出とインバウンドへの貢献

Q3:コミュニティ形成や実験的取組みの 人的・資金的サポートが可能な領域はあるか

- ・コミュニティの立ち上げ期のサポート(インセンティブ含む)がスポーツをつかった地域の持続可能性の促進剤になるかもしれない
- ・シャレンプラットフォームの活動が進むためには、中間支援団体向けの資金支援や行政との接続などの人的支援が促進剤になるかもしれない
- ・活動そのものに実験的予算を付けることも大事
そのうえで、その活動をやって終わりとしないう、活動の持続可能性についてスキームを検討するプロセスまでをサポートできれば循環軌道に乗れるかもしれない

Q4: スポーツを活用した取り組みの効果測定と ロジックモデル策定を今より多く出来ないか

(ex.)

スポーツが地域にもたらす社会的価値の可視化を加速する必要はないか

⇒価値創造プロセスのモデル設計と、
ロジックモデルや社会的インパクト評価を行い、
合わせて、価値算定モデルをつくることに資金手当てが必要ではないか。

歴史的な背景もあり、
ヨーロッパはスポーツがあることが「善」。日本ではスポーツに意味づけが必要。

スポーツがあると、コミュニティ形成や愛着形成にどんな効果が生まれるか。
社会関係資本と社会福祉のコストの関係性など。

Q5: どうしたら、各省庁の領域分断を乗り越えられるか？ ～領域間に落ちているものを洗い出したい！～

スポーツのもたらす効果は多岐にわたるが、
一番の窓口であるスポーツ振興課はスポーツ振興が主な目的の部署。

スポーツのもたらす効果を鑑みれば、教育・福祉・観光・まちづくりとも
親和性が高いにも関わらず、縦割りになりやすい。

逆に、スポーツ振興課以外は、スポーツの活用メニューが知られていないことも
多いように感じている。

果たして領域横断のプロジェクトはどうしたら起こせるのか？



モヤモヤ事例① (私見です。認識誤りあればごめんなさい！)

(例)美馬市×企業×徳島ヴォルティスのソーシャルインパクトボンド

⇒組成までの負担が大きかった。この事例は経産省にサポートいただいた。
今後はどこにサポートいただくのが普通か？社会福祉領域だと厚労省案件？
社会保障費の効率化はどこが所管？

(例)オリパラ案件：川崎市×企業×フロンターレ

⇒これは本来誰の役割か？クラブは社会的責任を果たしているが、短期的・経済的には大きな
メリットがない。このプロジェクトの持続可能性や発展形を考えるのは誰の役目なのだろう？と
迷ってモいる。
⇒スポーツ庁？国交省？厚労省？文科省？どこが所管になる？

(例)スポーツ×住民のエコシステム(生態系)が分断されている可能性がある

例えば、障がい者スポーツでいえば、
トップアスリート⇒町のクラブ⇒学校や福祉団体、生活支援コーディネーターなど
との接続は誰がすべきなのだろう？
⇒本当は日常的に混ざり合う環境を設計すべきだが、
所管が分かれてしまい、一気通貫した流れが出来ていないといったことはないか？

モヤモヤ事例② （私見です。認識誤りあればごめんなさい！）

(例)コンパクトシティの話とスタジアム建設って交わらなくてよいのか？

⇒街づくりの中に本来組み込むべきではないのか？住民参画がどこまで出来ているか？

(例)医療・福祉・スポーツは分断されていないか？

(例)スポーツできる場と指導者のマッチングはどこが所管？部活動とアカデミーのコラボは？

(例)スポーツのオープンイノベーションの小ささも分断から来ていないか？

スポーツを中心に生まれる技術やアイデアは、本来人類を進化させたり、経済を発展させるものであるが、スポーツ団体の中心関心は新技術・アイデアではなく、競技力に特化しており、閉じやすい。オープンイノベーションの大きなポテンシャルはあるにも関わらず、ビジネスセクターからは参入のハードルが高く、また、そこで得られたものをビジネス化していく人材が不足している。

(例)仮説：芝生化やナイター施設がママのサッカー環境を生み、サッカー文化とコミュニティを生んでいるかも？⇒施設整備による効果がきちんと調査され、アクションプランに繋がるサイクルは存在しているか？

(例)多様な大会をつくるだけでも障がい者スポーツの促進になるけど誰が旗振るの？

(例)スポーツに企業からの資金流入を促進するための税制等の措置はアリ？ナシ？

(参考資料)



#Jリーグをつかおう！の意義

Jリーグ理念

1. 日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進
2. 豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与
3. 国際社会における交流及び親善への貢献

百年構想

～スポーツで、もっと幸せな国へ～

- ◆あなたの町に、緑の芝生におおわれた広場やスポーツ施設をつくること。
- ◆サッカーに限らず、あなたがやりたい競技を楽しめるスポーツクラブをつくること。
- ◆「観る」「する」「参加する」スポーツを通して世代を超えた触れ合いの輪を広げること。

スポーツで人生が変わる

国民の心身の健全な発展



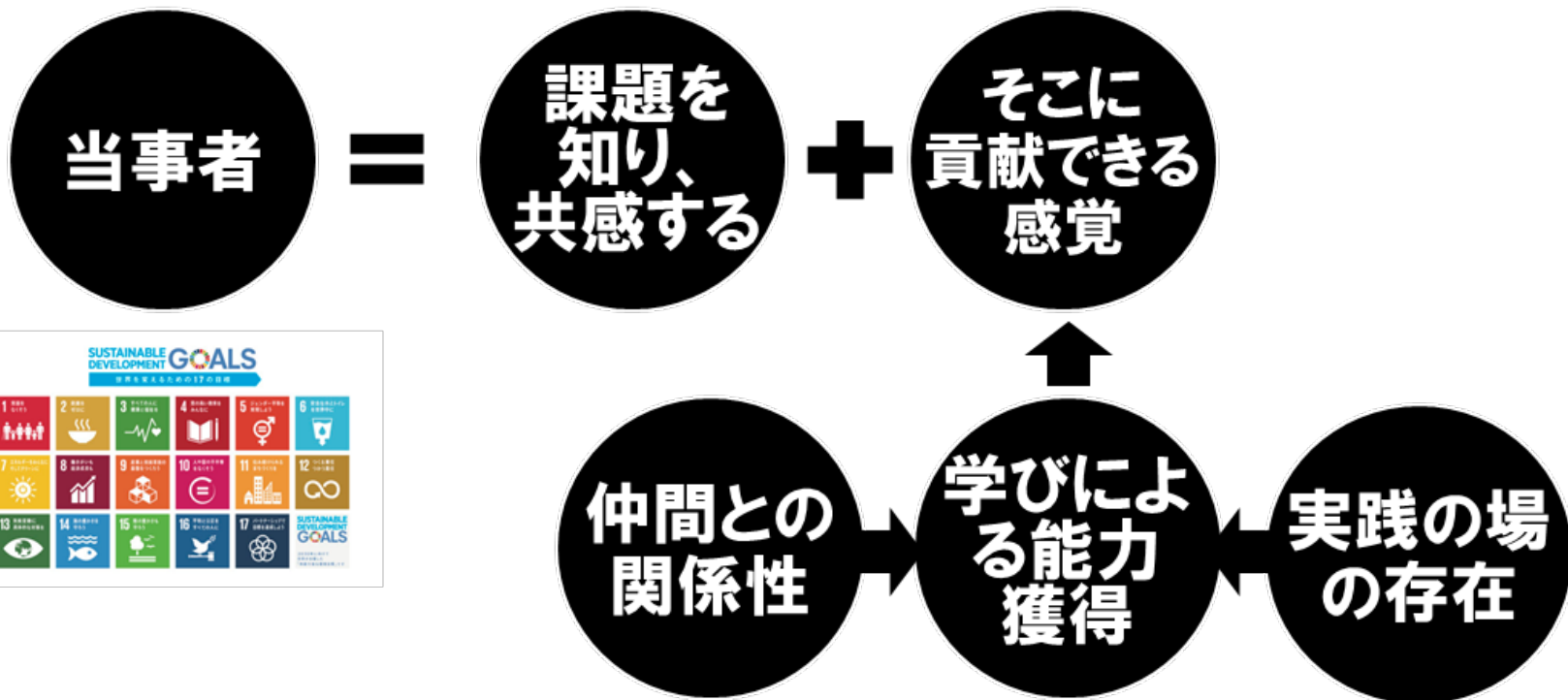
Do ALL SPORTS の説明文抜粋：あらゆるスポーツを行う（Play Sports）だけでなく、スポーツを観る、語る、応援するといった、生活の場に根付いたスポーツとのかかわりを推進することで、豊かなスポーツ文化の醸成を目指していきます

スポーツ基本計画より

- ①スポーツで「人生」が変わる（スポーツをする楽しみや成長やつながり、スポーツを観る楽しみ、スポーツを支えて成長する・貢献する）
- ②スポーツで「社会」を変える
- ③スポーツで「世界」とつながる

地域を笑顔にする仲間＝ “当事者”を増やしていきたい

未来共創



なぜJクラブが当事者を増やすのに適切なのか？

“当事者”を増やす要素とJリーグクラブ

未来共創

 発信力/求心力

当事者

=

課題を
知り、
共感する

+

そこに
貢献できる
感覚



仲間との
関係性

学びによ
る能力
獲得

実践の場
の存在



  繋ぐ力

 全国55クラブ 

資金や人的資源に限りはあるが
発信力・つなぐ力・ワクワク感に強みがあり
地域に対する想いは非常に強い

#Jリーグをつかおう！を通じて人々に何が起きるか？



- 共通目標
 - 関係性の構築
 - だれかの役にたつ(貢献実感)
- 

街への愛着、誇り、生きがい

#Jリーグをつかおう！を通じて地域に何が起きるか？



プロジェクトから生まれる地域の笑顔

参加者の街への愛着、誇り、生きがい

街に「当事者」が増えていくこと

共助の促進、共生社会の実現
(+α) 財政コスト減

Jリーグ社会連携 の CCRC 的側面

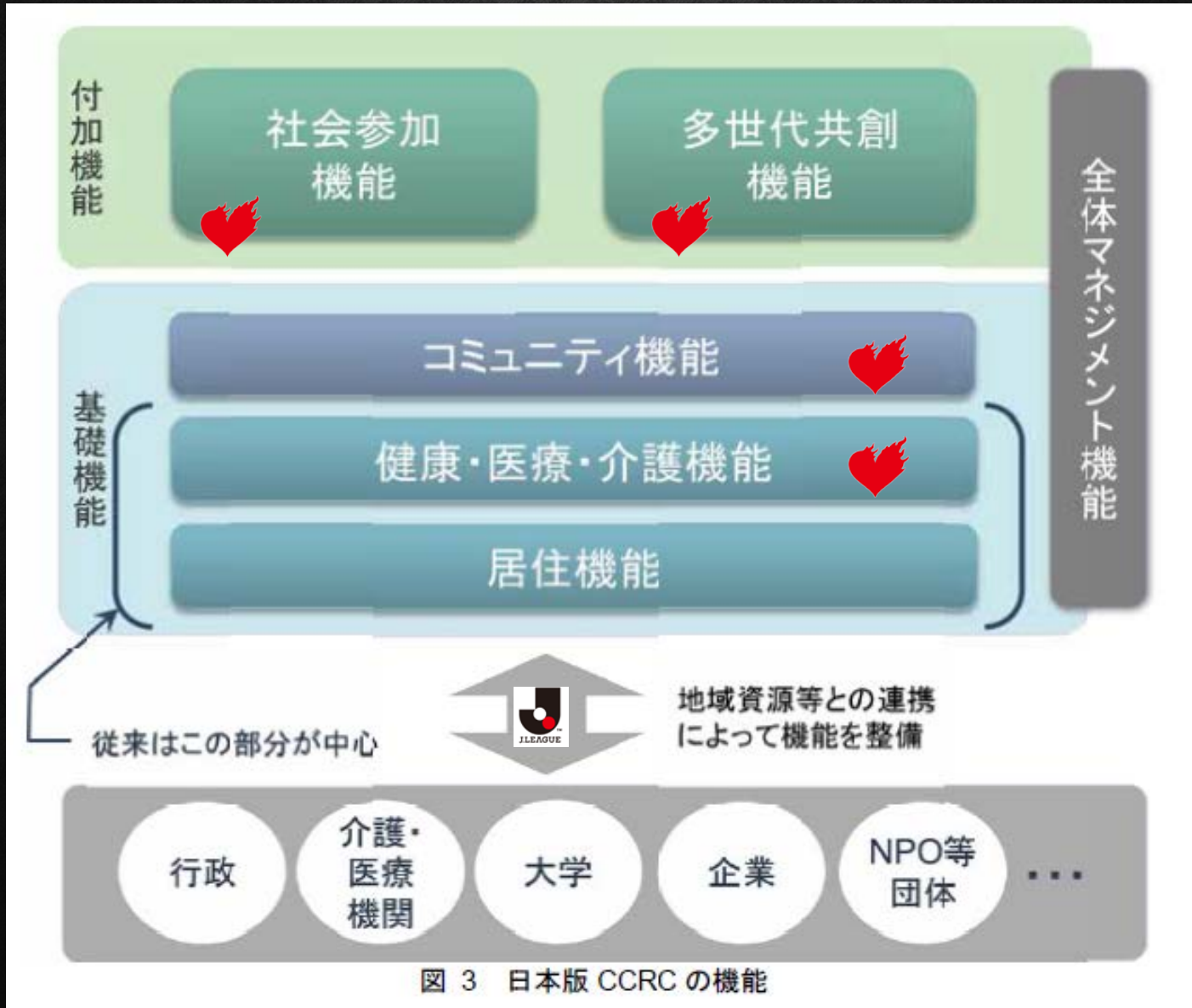


図 3 日本版 CCRC の機能



レノファ山口の挑戦！ Jリーグ社会連携型CCRC構想



出典：サステナブル・プラチナ・コミュニティ(日本版CCRC)政策提言 より加工

① レノファ山口×社会福祉法人 健康のための活動



行政もジョイン
保育園、学校等への広がりも！？

② 地域の人達との まちづくりの対話セッション



③ レノファのもつネットワークを活用

山口県、山口市、全市町、山口大学、山口県立大学、山口商工会議所
山口銀行、中国経済産業局、YMZOP、
Jリーグ、イオングループ、明治安田生命、日立キャピタル、大塚製薬、
KPMG、梓設計、三菱総合研究所、日本政策投資銀行、その他多数企業